

京 都

京都府支局
京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2
府庁西別館内
075・441・3660

南山城村農業委員会
中窪 耕司会長(60)

担い手と高齢農家の
橋渡し役に



農地利用の最適化にか
かる推進活動へ、遊休農地
の発生防止・解消、担い
手への利用集積・集約化
に積極的に取り組んでい
きたい。



これらを成し遂げるた
めに担い手や新規就農者
と高齢で耕作できなくな
った耕作主との橋渡し役
になったり、農業委員と
農地利用最適化推進委員
が共に力を合わせて取り
組める環境づくりに尽力
したい。

新会長の抱負

大山崎町農業委員会
垣内 兵次会長(70)

新規就農と特産
振興に取り組む



大山崎町内には、約25
軒の農地があり、114
戸の農家が、野菜ナ
ス、オクラ、花き(パ
ラダイス)などの特産物を生産して
いるが、農地の大半が市
街化区域内に点在して
いるため転用抑止が困
難で、今後の担い手確保も
課題となっている。



農業委員会として、特
産振興と転用抑止、新規
就農者を増やす取り組み
に力を入れ、町農業の発
展につなげていきたい。

非農家と一緒に持続可能な農業・農村めざす 「地域計画」策定に向けた話し合いを推進中！

農業のこれからについて話し合いを進めよう

京力農場プランから地域計画へ

「京力農場プラン」ではこんな話し合いをしよう！

「地域計画」ではこんな話し合いをしよう！

地域計画の目的や策定手順を説明するチラシを写真として作成し、7月24日から市内10カ所で開催した拡大地区連絡会議(農地利用状況調査の説明会)で、農業委員会協力員(市内各集落の農区長73人)などに、「非農家も一緒に持続可能な地域づくりの話し合いを」と呼びかけた。

8月21日から始まった2回目の拡大地区連絡会議(利用状況調査の結果報告会)では、現況地図の作成から地域計画策定までの流れを再確認し、集落ごとに再生困難な荒廃農地の非農地判断と農地利用の話し合いを進めている。

同市では、本年度中に京力農場プラン未策定の集落でプラン策定を急ぐとともに、現況地図による地域計画の話し合いを22集落で取りまとめる予定としている。

01 地域の農地の状況についての確認

02 農地の所有者、耕作主へ今後の農地利用の意向の確認

03 意向をもとに農地利用の計画を地図化

04 地域計画に基づき、地域で農地中間管理事業の利用を促進し、毎年、地域計画を更新

宮津市と同市農業委員会

宮津市と市農業委員会は、地域計画の目的や策定手順を説明するチラシを写真として作成し、7月24日から市内10カ所で開催した拡大地区連絡会議(農地利用状況調査の説明会)で、農業委員会協力員(市内各集落の農区長73人)などに、「非農家も一緒に持続可能な地域づくりの話し合いを」と呼びかけた。

8月21日から始まった2回目の拡大地区連絡会議(利用状況調査の結果報告会)では、現況地図の作成から地域計画策定までの流れを再確認し、集落ごとに再生困難な荒廃農地の非農地判断と農地利用の話し合いを進めている。

同市では、本年度中に京力農場プラン未策定の集落でプラン策定を急ぐとともに、現況地図による地域計画の話し合いを22集落で取りまとめる予定としている。

21地区推の意見を集約！



農業委員会の藤田重行会長(左から4人目)と役員から大橋市長(右から4人目)に要請した(8月24日)

来年度の施策を市長に要請

福知山市農業委員会
そのた 農業者の意見を提出し、来年度に実施への反映に努めることは農業委員会法38条に基づき大切な業務であり、同市では、農業委員会の意見を踏まえて来年度の施策の検討が始まっている。

福知山市農業委員会は、市内の地区営農推進協議会(市内248集落をカバーする21組織、「地区推」と略)の意見を集約し、同市の来年度予算編成に向けて、8月24日、大橋一夫市長に要請書を提出した。

同市では、地区推の会長に農地利用最適化推進委員が就任し、集落の農区長(農業委員会補助員)と連携して「地域計画」策定や「農振地域整備計画」の見直しに向けた取り組みを一体的に進めている。

万願寺甘とうで新規就農



万願寺甘とうを剪定する山下さん

農場で2年間研修した後、農業経営者として今年から独立した。

現在の経営面積は約10アだが、近隣の農地所有者から「農地を借りてほしい」と依頼を受けているため、早く経営を安定させて規模拡大したいと意欲を見せる山下さん。

「市内の若手農業者と力を合わせ、若者の就職先として農業が選ばれるようにがんばりたい」と今後の夢を語った。(舞鶴市農業委員会)

農deまらまら

舞鶴市
山下正隆さん

舞鶴市鹿原地区で特産「万願寺甘とう」主体にエビモ、ホウレンソウなどを栽培する山下正隆さん。10年前から市内の担い手農家のもとで修業し、府の担い手養成実践

農地中間管理事業(河野牧場)の完全堆肥を施用して万願寺甘とうがら

女性委員が「つないで発信」

南丹市美山町で、野菜・水稲・豆類を夫と2人で栽培しています。野菜は、地元酪農家(河野牧場)の完全堆肥を施用して万願寺甘とうがら

除菌剤「ヨドックス粒」を開発

畜産センター 効果が8週間持続

では、消石灰よりも人獣への安全性が高く、効果が長期間持続する新たな消毒資材として、ヨドックス粒を開発し、消費

畜産センターは、効果期間効果を発揮する消毒資材として畜産農家に推奨している。

資源の循環で地域を元気に！



「親子ふるさと体験」の参加者の皆さん(8月3日)

農家(外田養鶏場)と協力して飼料用米を70ア栽培し、糞糞を鶏舎で利用することができ、とても励みになりました。